

イタリア映画界の異端児

アゴ스티ーの世界

「私がシルヴァーノ・アゴスティーに出会ったのは、マルコ・ベッロッキオの『ポケットの中の握り拳』(1965年)の編集作業中のことでした。シルヴァーノは編集マンとしてあの作品に参加していて、作品の成功に貢献しましたからね。その出会いの後、私は彼の映画をすべて観て、『快樂の園』のために音楽をつけました。あれは過小評価されていますが、観客を震撼させるとも並外れた作品ですよ。

今回、私はシルヴァーノの『クワルティエーレ 愛の渦』のために作曲をしました。私が思うに、シルヴァーノは現代の才能あふれる完璧な監督のひとりですよ」

—エンニオ・モリコーネ



ジャパン
プレミア
上映!

La seconda ombra 『ふたつめの影』

精神医療の先進国イタリアの伝説的精神科医フランコ・バザーリアが、1961年に北イタリアの町ゴツィアで感じた苦悩と大なる改革。この分野では後進国と言われる日本での上映が大きな意義を持つことは間違いない。

『快樂の園』『シルヴァーノ・アゴスティー 見えないものを見る人』『ふたつめの影』
『クワルティエーレ 愛の渦』『人間大砲』『カーネーションの卵』『天の高みへ』

4/16 土 ~ 29 祝 元町映画館

本国イタリアやフランスで圧倒的な評価を誇る巨匠シルヴァーノ・アゴスティー
代表作6本+アゴスティー入門ドキュメンタリーを神戸初上映!



A 快楽の園 (※Aプロは2作品同時上映です)

Il giardino delle delizie



ハネムーン先のホテルで早くもすれ違ふカップルの、過去と未来が交錯する。モリコーネのロックサウンドも異色な、現代にもそのまま通じるテーマを突きつけた、アゴ스티、鮮烈の監督デビュー作。ラングヤルノワール、ベルイマンといった巨匠も絶賛。

- 1967年 ●イタリア ●モノクロ・74分
- 監督・脚本/シルヴァーノ・アゴ스티 ●音楽/エンニオ・モリコーネ
- キャスト/モリス・ロネ、イヴリン・スチュワート

A シルヴァーノ・アゴ스티 見えないものを見る人

Il senso del mistero



アゴ스티は同世代の1935年生まれで、これまでに制作したドキュメンタリーは500本以上、イタリアを代表する記録映画監督ブルナットが、シタラ構成でわかりやす(繊細)な貴重な一本。これを観れば、アゴ스티の輪郭がくっきりと浮かび上がる。代表作の子告編的な映像、アゴ스티の生活、映画づくりの裏側など、「アゴスティって誰?」という人は必見です。

- 2003年 ●イタリア ●カラー・30分
- 監督/ハオロ・ブルナット

C クワルティエーレ 愛の渦

Quartiere



4つの愛の物語、4つの人生の段階、4つの季節を描くオムニバス。クワルティエーレとは、「地区」や「エリア」という意味。ローマでもウッチカク(市国)にほど近い、監督が長年暮らす界隈で撮影された。すべてが実話なのに、すべてがファンタジー。モリコーネのベストスコアに挙げられるサントラは必聴。

- 1987年 ●イタリア ●カラー・81分
- 監督・脚本/シルヴァーノ・アゴ스티 ●音楽/エンニオ・モリコーネ

E カーネーションの卵

Uova di garofano



第2次大戦の終わり、混乱期にあったイタリア北部を、子供たちの視点を通して映像化した自伝的作品。あのベルトルッチも絶賛した、真正正銘アゴ스티監督の代表作。

- 1991年 ●イタリア ●カラー・103分
- 監督・脚本/シルヴァーノ・アゴ스티 ●音楽/ダニエーレ・ヤコ
- 特別協力/アンドレイ・タルコフスキー

B ふたつめの影 【ジャパン・プレミア上映!】

La seconda ombra



1961年、北イタリア、ゴリツァア精神病院。ひとりの用務員が、洗濯物を回収しながら、施設内の暴力的な現状をひそかに観察している。

実は彼は新しく赴任してくる院長で、次に白衣をまっとうと現れると、早速職員たちを集め、病院を本質的に改善する意志を表明。拘束服、電気ショック、冷水シャワーなどは即刻排除。閉ざされていた精神病院の扉を開放けつてしまふなど、それまでなら考えられなかったアイデアを次々と実行に移していくのだが…。

この映画は、精神医療の先進国イタリアの伝説的精神科医、フランコ・バザリアに捧げられている。

彼が現場で感じた苦悩と喜び、その成果としての大いなる改革。患者たちと一緒に挑んだ精神病院の解体。この分野では後進国と言われる日本での上映が大きな意義を持つことは間違いない。

さまざまなエピソードに心を揺さぶられ、鑑賞後のカタルシスに酔いしれながら気づくのは、難いのは新しい発想を持つことではなく、古い観念を乗り越えること。この作品は、私たちに「乗りこえろ」勇氣と強さを与えてくれる。

- 2000年 ●イタリア ●カラー・84分
- 監督・原案・脚本・撮影・編集/シルヴァーノ・アゴ스티
- 音楽/ニコラ・ピオヴァーニ ●キャスト/レーモ・ジローネ、ゴリツァアとドリエステの旧精神病院入院患者およそ200名

D 人間大砲

L'uomo proiettile



毎晩サーカスで「人間大砲」として打ち上げられる「砲弾男」、火付け役の女イヴリンと恋に落ちた彼は、愛情と嫉妬について悩みに悩んでいるもの…。イタリア最高峰の文学賞ストレーガ賞最終候補にノミネートしたアゴ스티の同名小説を自ら映画化。

- 1995年 ●イタリア ●カラー・86分
- 監督・脚本・撮影・編集/シルヴァーノ・アゴ스티
- 音楽/エンニオ・モリコーネ

F 天の高みへ

Nel più alto dei cieli



北イタリア田舎町の代表団がウッチカクで法王を表敬訪問する。老若男女さまざまな立場のメンバーは、一線に胸を高鳴らせ、動員の間へと移動するためにエレベーターに乗り込むのだが…。人間の本性について思いを馳せざるをえない衝撃の問題作。終映後、ルイス・ブニュエルは「隠喩のようだが、おぼろげではない。はっきりしている」とつぶやいた。

- 1976年 ●イタリア ●カラー・83分
- 監督・脚本/シルヴァーノ・アゴ스티 ●音楽/ニコラ・ピオヴァーニ

京都・大阪・名古屋でそれぞれ好評を博したアゴ스티映画祭が、**ジャパン・プレミア**となる作品を含めて関西に帰ってきます。
「イタリア映画界の異端児 アゴ스티の世界」が神戸・元町に!

□開催期間
2011年 4月16日(土)~29日(金・祝)

□上映会場
 〒650-0022 神戸市中央区元町通9丁目1-12
元町映画館
 TEL&FAX 078-366-2636
 メール info@motoei.com

□料金
 一般1500円 シニア1000円 学生1000円 神戸映画サークル会員1200円
 ※前売チケットは販売していません。
 火曜:レディースデー1000円、水曜:メンズデー1000円
 2本続けてご鑑賞の場合は、2本目の料金が1000円になります(当日限り有効)。



JR:阪神電車「元町」駅西口より、南西へ徒歩6分
 http://www.motoei.com/access.htm

☆座席数 66席+1(車椅子) <各回入替制>
 ※全作品とも、監督から直接提供を受けたデジタル素材による上映となります。
 フィルムによる上映ではない点、ご承知おきください。

□作品内容についてのお問合せ
 大阪ドーナツクラブ ▶ info@osakadoughnutsclub.com

□上映スケジュール

4/16(土)	17:30	★20:00
	A	B
4/17(日)	17:30	19:20
	C	D
4/18(月)	17:30	19:40
	E	F
4/19(火)	17:30	19:20
	B	A
4/20(水)	17:30	19:20
	F	B
4/21(木)	17:30	19:40
	A	C
4/22(金)	17:30	19:25
	D	E
4/23(土)	10:30	12:40
	E	B
4/24(日)	11:00	13:10
	A	F
4/25(月)	11:00	12:50
	F	B
4/26(火)	11:00	13:10
	A	C
4/27(水)	11:00	12:55
	D	E
4/28(木)	11:00	12:50
	C	D
4/29(金)	11:00	12:50
	B	A

【特別トークショー開催!】

- ★① 4/16(土)19:20~20:00 アゴ스티の小説を訳し、監督自身も交友の深い大阪ドーナツクラブ代表・野村雅夫による『アゴ스티入門』トークショーがあります。
- ★② 4/23(土)14:10~14:40 京都大学人文科学研究所研究員 松嶋健氏によるトークショーがあります。文化人類学の立場からイタリアの精神医療を研究され、『ふたつめの影』の主人公であるフランコ・バザリアについての論文も執筆していらっしゃる松嶋氏に、野村雅夫がお話をうかがいます。



Silvano Agosti
 シルヴァーノ・アゴ스티

1日3時間しか働かない国
 罪のスパダ

作家・映画監督。1938年、イタリア北部、プレーシャ生まれ。高校卒業後、崇拜していたチャプリンの生家を訪れるため、渡米。その後、ヒッチハイクで西ヨーロッパ、バルカン、中東、北アフリカと地中海をぐるりと通り、ローマへ。62年、国立映画学校監督コースを首席で卒業し、奨学金でモスクワ国立映画学校に留学。編集技術を磨きつつ、エイゼンシュテイン研究に没頭する。卒業後はソ連15カ国をまわる。ローマに戻ると、本格的に映画制作に取り組み、問題作を次々と発表。すべてを自分で切り盛りするインディペンデント作家として絶大な支持を得ている。83年に開いた自身の映画館は、ローマでも有数の名画座となり、映画ファンに愛されている。小説の執筆にも精力的に取り組み、イタリア最高峰の文学賞であるストレーガ賞に2作がノミネートされている。日本では、イタリアでベストセラーになった小説『誰も幸せになる 1日3時間しか働かない国』(マガジンハウス)の他、『罪のスパダ』(シライトパブリッシング)が出版され、高い評価を得ている。現在、シライトパブリッシングのウェブサイト上で、近作『92の短い長編小説』が毎週翻訳掲載されている。

Osaka Doughnuts Club 大阪ドーナツクラブ

もともとち・えいがかた

元町映画館